

第14号



ニュース

ニュース

加盟団体

- ・NTT西日本広島
- ・サンフレッチェ広島
- ・JTサンダーズ
- ・湧永製菓
- ・広島メイプルレッズ
- ・広島ガスバドミントン部
- ・ソフトテニスクラブ
- ・中国電力陸上競技部
- ・コカ・コーラウエスト
- ・レッドスパークスホッケー部
- ・広島東洋カーブ

中国実業団選手権



バドミントンの中国実業団選手権は22、23日、鳥取県倉吉体育文化会館で行われ、女子の広島ガスAが2年連続13度目の優勝を飾った。予選リーグをAが1位、Bが2位で勝ち上がり、準決勝ではAがBを下して決勝に進出、ACT SAIKYO (山口)を下し頂点に立った。

▽準決勝 広島ガスA2-0 広島ガスB (早川・橋本2-0 小池・前田、後藤2-1 武田)、ACT SAIKYO2-0 山陰合銀▽決勝 広島ガスA2-0 ACT SAIKYO (早川・橋本2-0 安念・皆川、後藤2-1 安念)

広島ガスV2

FF 今年も参加したヨ



パレードに中電、広島ガス、湧永、メイプル

5月3日から3日間、平和大通りを中心に開かれたフラワーフェスティバルにトップスから中国電力、広島ガス、湧永製菓、メイプルレッズの各選手が参加、3日のパレードや花の塔そばに設けられた「トップス広場」でサイン会や的当てゲーム、グッズ販売などで多くのファン、市民と触れ合いを深めた。

また、4日には広経大ブースに湧永製菓、メイプルレッズ、広島ガスの選手が登場、トークショーやサイン色紙プレゼントなどでそれぞれのチームのPRに務めるなど、集まった人たちと一緒に、和気あいあい、なごやかなひとときを過ごした。



手痛い1敗 日本リーグ開幕

ホッケー日本リーグ女子は8日開幕した。積極的な補強で初優勝を目指すコカ・コーラウエストは開幕戦で立命大に9-0と大勝、幸先よいスタートを切ったが、続く天理大に無念の引き分け、東海学院大にはまさかの黒星と手痛い1敗。しかし4連覇を狙うソニーにスコアレスドローに持ち込んで5位につけている。次節は6月5、6日に地元で2位南都銀行、立命大を迎える。ここできちり白星を稼ぎ上位進出を図りたい。

《コカ・コーラウエスト 成績》

※第1節

○9 (5-1、4-0) 1立命大
▽0 (0-0、0-0) 0天理大

※第2節

●1 (0-1、1-2) 3東海学院大
▽0 (0-0、0-0) 0ソニー

為藤5点 日本最多得点タイ 6度目のW杯出場に貢献

ロシアで行われた女子ワールドカップ予選で日本は3大会連続6度目の出場権を獲得した。FW為藤が日本最多得点タイの5点を挙げた。この大会にはほかにMF駒沢 (主将) DF小野、GK吉川が出場した。



全日本シングルス選手権は15、16日、広島域公園テニスコ

ートで開かれ、2連覇を狙った男子の新人長江 (早大出) は決勝で涙を飲み準優勝だった。3位には原、中堀が入った。

女子は埴田、大庭がともに準決勝で敗れ、3位に終わった。

男女とも3位

アジア大会代表選考会

アジア大会 (11月・中国) 代表選考会は3日から3日間、大阪・鞆テニスセンターで行われ、男子の中堀・高川、女子の佐々木・大庭はともに3位となった。7月の推薦決定に希望を託す。

《知事杯県選手権》4月18日・広島市中央コート

▽一般男子

①水沢・岩崎②館越・原③堀・長江④中堀・高川

▽一般女子

①佐々木・大庭②埴田・山本③榎本・伊東④水間・三好
⑤熊鳥・前道

2年連続V逃す 長江2位

《全日本シングルス選手権》

【男子】準決勝 長江4-2 原、中堀2-4 菅野 (川口市役所)

▽決勝 長江1-4 菅野

【女子】準決勝 埴田1-4 杉本 (東芝姫路)、大庭3-4 上原 (ナガセケンコー)

《アジア大会代表選考会》

【男子】

▽1次リーグ A組①中堀・高川3勝、H組①水沢・岩崎3勝、L組①堀・長江3勝、M組②館越・原2勝1敗、P組①森本・玉川 (三重高ク) 3勝▽2次リーグ A組①中堀・高川3勝、B組②水沢・岩崎2勝1敗、C組④堀・長江3敗、D組②森本・玉川1勝2敗▽3次リーグ③中堀・高川1勝2敗

【女子】1次リーグ B組③榎本・伊東2勝2敗、D組②埴田・山本2勝1敗、F組②水間・篠笠 (瀬戸ク) 2勝1敗、G組①佐々木・大庭3勝、I組④熊鳥・前道3敗▽2次リーグ B組②佐々木・大庭3勝1敗▽3次リーグ ③佐々木・大庭1勝2敗

黒鷲旗全日本男女選抜大会



黒鷲旗全日本男女選抜大会は4月30日から6日間、大阪府立体育館で行われ、久保新監督の初さい配となったJTは6年ぶりの頂点を狙ったが、惜しくも準優勝に終わった。予選リーグを1位で決勝トーナメントに進出したあと、東海大、東レを下し2004年以来6年ぶりの決勝でパナソニックと対戦したが0-3のストレート負けした。しかし、来シーズンへ大きな灯りをともした戦いだった。個人表彰では決勝トーナメント3試合で69点を挙げたゴメスが敢闘賞とベスト6、国近がベスト6に初めて選ばれた。

《黒鷲旗全日本男女選抜大会 成績》

- ▽予選リーグC組
 - 3-0 富士通 ○3-0 日体大
 - 3-2 堺 順位 ①3勝
- ▽準々決勝
 - 3 (15-25、25-19、26-24、27-25) 1 東海大
- ▽準決勝
 - 3 (25-22、25-21、25-23) 0 東レ
- ▽決勝
 - 0 (19-25、36-38、23-25) 3 パナソニック

JT 悔しい準優勝

直弘、尾上ら4人退部

黒鷲旗でシーズンを締めくくったJTは4選手の退部を発表した。元日本代表で左腕からの豪快なスパイクで鳴らした直弘龍治、センター尾上健司、セッター丹山慎昭、リベロ後藤幸樹。

直弘は広島工高から東亜大を経て2001年に入部し9年間、天皇杯全日本選手権優勝などに貢献。日本代表としてはワールドリーグや世界選手権などに出場した。

尾上は02年、休部した富士フィルムから移籍。準優勝した02年Vリーグブロック賞、ベスト6を獲得。日本代表では世界選手権やワールドカップなどに出場した。

丹山は03年から7年間在籍。先の黒鷲旗準優勝などで活躍。後藤は07年からリベロとしてチームを支えてきた。

4人は9日のファン感謝デーであいさつ、別れを告げた。今後は社業に専念する。

長谷川・喜田

⇒オリックス迎



早くも交換トレード

早くも交換トレードが決まった。長谷川昌幸投手、喜田剛内野手とオリックス迎祐一郎外野手=写真。

長谷川は1996年ドラフト1位で入団の32歳。15年間の通算成績は42勝58敗、防御率4.44の成績を残している。

喜田は2007年シーズン途中に阪神から移籍。通算229試合に出場、打率2割5分、本塁打9本、打点44。

オリックスの迎は180万円、79万円。佐賀・伊万里商高から2000年ドラフト3位で入団。通算162試合、打率1割8分5厘、本塁打7本、打点24。今シーズンは3試合出場。



LEOLIC 新部長に長澤氏

湧永製菓は新シーズンのスタートに当たり、フロントの一部を変更し、三好健一部長に代わって、新たに副部長として長澤純平氏が就任した。

長澤副部長は現役時代は強打を売り物に黄金時代に貢献した。「プレーヤーを退いてかなりの期間が経った。久しぶりにチームに携わることになったが、王座奪回に少しでもお役に立ちたい」と話した。

9位で中断

《J1リーグ 成績》第8節以降

- *第8節
 - △2 (1-1、1-1) 2 新潟
 - *第9節
 - 2 (1-0、1-1) 1 FC東京
 - *第10節
 - 1 (1-1、0-1) 2 磐田
 - *第12節
 - △0 (0-0、0-0) 0 大宮
- (注) 第11節はACLの関係で7月14日に開催

ACLは白星で終戦

アジア・チャンピオンズリーグ(ACL)は1次リーグ敗退が決まったが、第6戦が4月27日ビッグアーチで前回の覇者・浦項と対戦、4-3で勝ち、3勝3敗で締めくくった。

この試合は若手中心で臨み、イキのいいサッカーで常に先手を取り、サポーターを沸かせた。



J1リーグは第12節で南アW杯のため約2カ月間の中断に入った。サンフレッチェはACLのため他より1試合少ない11試合を消化、4勝4分け3敗、勝点16で9位。中断期間中は6月2日まで練習を休み、6月18日から1月1日までオーストラリアで夏季キャンプを張る。再開後の快進撃を期待しよう。

4勝4分け3敗 勝点16

中国電力 陸上競技部

石川

鮮やかデビュー

ルーキー石川拓哉が鮮やかデビューを飾った。みよし運動公園陸上競技場での中国実業団選手権で5000m、10000mに出場、いずれも日本人トップの2位に入り、男子の最優秀選手賞を獲得した。

山口県出身の石川は明大で大きくはばたき、主将を任された昨年は出雲、全日本大学駅伝でいずれも日本人トップ、箱根ではトップで快走した。

《中国実業団選手権 記録》

- ▽15000m ①田子康宏 3分50秒28
- ▽5000m ②石川拓哉 13分50秒70
- ④岡本直己 13分52秒30
- ⑥伊達秀晃 14分04秒56
- ▽10000m ②石川拓哉 28分38秒03
- ④伊達秀晃 28分54秒47
- ⑤藤森憲秀 28分55秒98
- ⑦米沢類 29分08秒85

岡本が3位 織田陸上

4月29日にビッグアーチで開かれた織田幹雄記念陸上5000mで岡本直己が14分04秒70で3位に入った。尾崎輝人は14分21秒59で8位に入賞。梅木蔵雄は12位、藤原昌隆は17位、尾方剛は26位だった。



ロゴマークの意味

広島県の木、広島県の花として県民になじみの深いモミジをモチーフにしました。「新緑のモミジ」はジュニアスポーツの育成を、「紅葉のモミジ」は選手が成長していく姿を表現しています。

ジュニア選手がトップを目標とすることを期待し、広島県のスポーツのジャンプアップを図ることを意味しています。